

# 共に 地域の武将・職人と生きる 正楽寺

鐘楼

山門



山号	月星山
宗派	真宗大谷派（浄土真宗）
本尊	阿弥陀如来
開山 改宗	大草四カ寺七坊の「西之坊」であった。 1232年 天台宗から浄土真宗に改宗。祐海 1605年 寺号を「正楽寺」とする。
住職	天野健太（28代）
住所	額田郡幸田町大草寺西6

10:05



経塚（藪の中からみつかったもの）

お話し頂いた  
天野信行前住職



◆昨年「作佐の会」

からご依頼いただいて、本日お越し頂きました。本堂でと思っておりましたが、修理し始めると悪いところが次々に出て、今日に間に合いませんでした。ここは他所でいう会館のような場所ですが、最近はこの場所で法事をする方が増えています。最近法事の人数も少なくなってきてちょうど使いやすいです。

◆この大草には、四カ寺七坊〔最明寺・光明寺・長来寺・観音寺、南城坊（浄土寺）・元坊・道信坊・向坊・赤井坊・東之坊・西之坊（正楽寺）〕が点在していました。当寺のものは、七坊のひとつである「西之坊」です。

◆過去帳には「西之坊」であったと記されていますが、藪の中から経塚が出てきて、それが証明されました。正楽寺になるのはかなり後です。

経塚（きょうづか）； 経典を経筒・経箱に入れて土中に埋納した塚。後世まで教法を伝えようと…。

御聖塚  
西之坊

とある

◆天台宗でありましたが、1232年（貞永元）に当寺住職 祐海が、矢作の柳堂で親鸞聖人の説法を聞き、寺伝ではその時に浄土真宗に改宗したとされています。しかしその後、蓮如が三河で布教した（1468年本宗寺建立）影響は大きく、その時に真宗になったお寺が多いです。（九代 祐蓮の頃）

経塚（であった石碑）



\*西之坊であった証

一向一揆で「西之坊」全焼、40年後再興され「正楽寺」に

◆1563年（永禄6）に三河一向一揆がおきました。大草松平家は反家康方であり、当寺も反家康です。寺は信者だけではもたないで、必ず権力者と関係ができます。そういうこともあり、一向一揆も純粋に信仰だけの戦いではありません。結果、寺（西之坊）は燃えてしまいました。（十二代 性空の時）

◆1602年（慶長7）三河天野氏で徳川家旗本・岩戸城主である天野長国の長男・又太郎長一が、真宗大谷派第12代門首教如の弟子となり出家し当寺を再興しました。十四代 祐染です。

◆1605年（慶長10）祐染は、父・天野長国の法名「正楽」を寺号とし、ここから正楽寺となりました。



## 三河三奉行(作左・高力・天野)のひとり、天野三郎兵衛康景は、祐染と同族!

天野氏とは；藤原南家工藤氏の一族。伊豆国田方郡天野郷（現・伊豆の国市天野）に居住し、地名を取って天野と称した。遠江守護となった今川氏と結び、国人勢力として遠江にて共に力を拡大した。遠江国のほか、天野氏の支流が駿河国・相模国・三河国・尾張国・甲斐国・安芸国・能登国等に繁延している。南北朝時代、南朝方だった天野遠貞は、三河国中山庄岩戸に移住した。三河天野氏の祖である。そしてその子の代に、勢力を拡大してきた松平氏に従い、以来代々仕え、岩戸城（現：岡崎市岩戸町…岡崎墓園の東・新東名高速道路の近く）を居城とした。家紋は「三蓋松」とする。祐染は、「中山岩戸の天野」の後裔（こうえい）である。天野康景は中山岩戸の天野ではないらしいが、三河天野氏として同族である。

三河一向一揆の時に家康に味方した天野；天野三郎左衛門（康景）、天野三兵衛、天野助兵衛、天野清兵衛、天野伝右衛門（康景の弟）、天野孫七郎（賢景＝遠貞の長男・長弘の玄孫）、天野又太郎（重信＝孫七郎賢景の子） 天野氏の家臣は多い？

鬼瓦の「三蓋松」の家紋。



◆1617年（元和3）祐染は、第12代門宣如のお供をして江戸将軍家に挨拶に行っています。

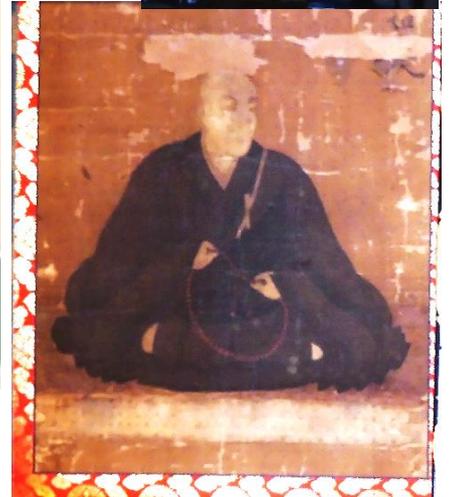
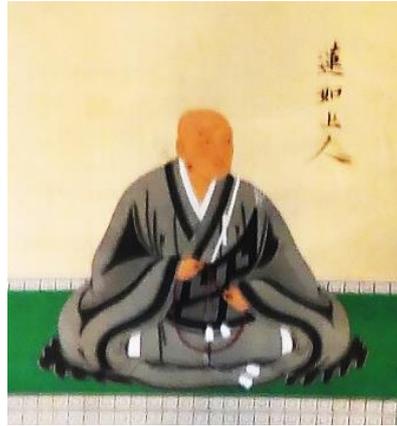
◆当寺は、祐染が教如の弟子であったので東本願寺（真宗大谷派）ですが、この辺は蓮如の影響もあって東本願寺の寺が多いです。真宗では必ず蓮如上人像が祀られていますが、当寺では、厨子に入った教如上人像もお祀しています。



教如  
上人像  
右の余間

本堂

蓮如上人像



◆1808年（文化5）本堂が落成しました。二十代 玄道の時です。現本堂であり、築後215年になります。

◆1813年（文化10）梵鐘を改鑄しています。この梵鐘は大草本田（葵カントリーの近く）の「月星山」で鑄造されました。月星山は当寺の山号です。残念ながら、当時の梵鐘は戦時の供出でなくなりました。

旧：経蔵



◆1847年（弘化4）経蔵が建立されました。経蔵は「一切経」（仏教經典全部をいう）を収蔵しておく所です。何千という經典があったのですが、見ない・使わないことが実情であり、桐の箱に入っていたのですが保存が難しいので、名古屋の同朋大学に寄付し、経蔵は取り壊しました。今はありません。跡地に鐘樓が建っています。

鐘樓堂



◆1859年（安政6）本堂の内陣奥行を拡張し、後門をつけ、玄関が造営されました。

玄関

◆1868年（明治1）当寺が「天野姓」になりました。

◆1910年（明治43）天野勇が二十六代住職となりました。

◆1946年（昭和21）梵鐘鑄造。鐘樓門が建立されました。

◇2016年（平成28）改築。二十七代信行



**旧：鐘樓門**



- ◆1962年（昭和37）宗祖（祐海）700回御遠忌法要厳修。
- ◆1974年（昭和49）信行が二十七代住職になりました。
- ◆2017年（平成29）庫裡を改築。
- ◆2019年（令和1）二十八代 健太 が住職を継職いたしました。（現住職）

**本堂**



**聖徳太子像**



**七高僧図**



◆鐘樓門とは、門の上に鐘樓堂を設けた門のことです。（二層で、下層が門、上層に梵鐘をつり下げる堂がある）上で鐘をつくのですが、耐震上の問題がありました。除夜の鐘の時などは人が多いので非常に危ない感じでした。それで、取り壊しました。（二十七代 信行の時）

「経蔵」も「鐘樓門」も、2つとも私の代で壊してしまいました。

**鐘樓門のなくなった現在の入口**



**旧鬼瓦 1808年(文化5)製作**



本堂の旧鬼瓦  
一八三二年(文化五年)  
三州幡豆郡野場村  
左右製瓦作と銘記  
平成三年十一月昼振  
葺替工事 同行の  
総意によりこれを永久  
に保存する  
松原作題

**本尊：阿弥陀如来像**



**親鸞上人像**



**山**

忙中山我を見る



閑中我山を見る



漫画『SLAM DUNK』（スラムダンク）の作者が、真宗大谷派から依頼されて描いたびょうぶ「親鸞」のレプリカ。↑

## 幸田町指定文化財

### 松平紀伊守源光重像・西郷頼頼像

◆当寺には、文化財に指定された二幅の掛軸があります。2人の人物から歴史を見ていきたいと思ひます。

#### 西郷頼頼(つぐより)像



H11.3.9 第19号指定

四つ割り桜  
に花菱



- ◆1959年 岡崎城天守が鉄筋コンクリート造りで再建されました。岡崎城はもとも誰が作ったのか？
- ◆室町時代、正楽寺付近に大草城(館)が築かれました。
- ◆1455年(康正1) 西郷弾正左衛門頼頼は大草城の城主でしたが、明大寺のあたり(岡崎)まで支配していました。そして、その明大寺に岡崎城(竜城)を築いて初代城主となったのです。

大草郷は、もとは地元の大草氏の所領地であり、【氏性大辞典】に『大草城はもと「大草公経」の領地で大草氏代々居住したが、後に西郷氏の所領になった』との記述がみられる。

明大寺岡崎城＝(東岡崎駅の北にある)明大橋の南側の東たもとにある大きな松のところにあった。六所神社の参道から低い尾根が続いて、先端がこの松のところになる。岡崎という地名は、明大寺(城)が丘陵の出崎(尾根から菅生川につき出ているところ)にあったことから名付けられたものとされる。

「作左の会」奥田敏春氏 講演より

- ◆1474年(文明6) 頼頼死去。西の坊に葬りました。
- ◆1477年(文明9) 岡崎城二代目城主 頼頼(よりつぐ)が亡くなり、頼頼の娘婿となった松平氏3代当主・松平信光の五男 光重が跡をつぎ、岡崎松平(大草松平)の初代となりました。安城松平が有名ですが、大草松平はこの辺では力を持っていました。

- ◆1493年(明応2) 光重の子信貞(頼頼の子という説も多い)が大林寺を明大寺に建立しました。頼頼、信貞の墓が

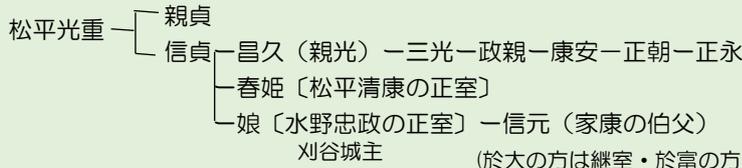
大林寺；岡崎市魚町にある浄土宗西山深草派の寺。松平清康公が守りの拠点として現在の位置である岡崎城の北に移設した。松平清康、広忠、清康夫人春姫(西郷信貞の娘)の墓もある。

#### 松平光重像



H3.3.14 第1号指定

三葉葵  
あります。



親貞は光重の嫡男、跡継ぎが生まれないまま亡くなり、弟の信貞が家督を継ぐ。信貞は西郷頼頼の子で養子だとも言われる。大林寺の由緒には「西郷頼頼の賢息である信貞」とある。

- ◆1494年(明応3) 光重が亡くなりました。当寺に、墓・位牌・肖像画があります。
- ◆1524年(大永4) 信貞は、勢力争いをしていた相手 安城松平家の清康に明大寺の岡崎城を譲り、娘於波留(おはる・春姫)を清康の正室とし、家督を親貞に譲って、大草に隠居しました。

#### 高力城主熊谷家の墓と 岡崎築城主西郷家の墓



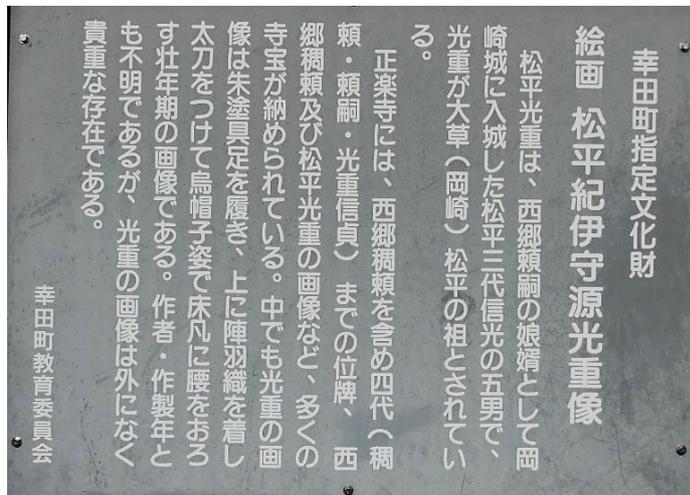
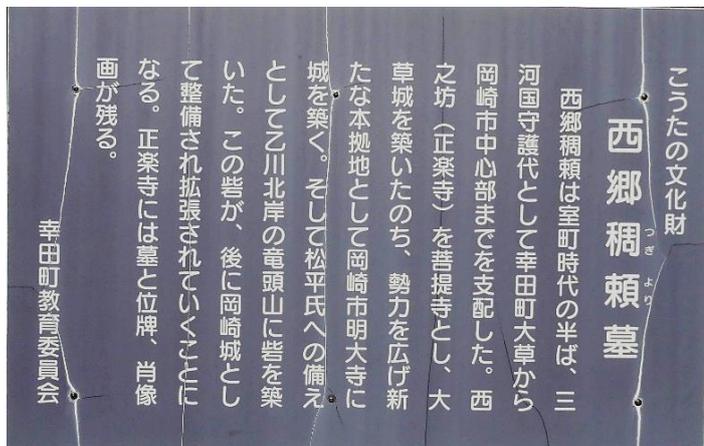
- ◆これより、清康は安城から岡崎へ移り、その後、城を明大寺から現在の位置に移しました。
- ◆1528年(享禄1) 高力城主 熊谷兵庫入道実長が死去し、当寺に葬りました。実長は、熊谷直実(源平の合戦での活躍で有名な武将・親鸞の弟子)より14代目。当寺に、墓・位牌があります。

#### 高力清長は、熊谷家の出身

実長の子に正直、その子の重長が「高力」姓を名乗り、松平氏(徳川氏)に仕えた。重長の孫が高力清長(三河三奉行のひとり)。

#### 「仏高力・鬼作左・どちへんなきは天野三郎兵衛」

- ◆1959年(昭和34) 岡崎城が再建され、この頃初めて西郷弾正左衛門頼頼が取り沙汰され、西郷家の墓を整備して、標柱を建てました。



◆二幅の肖像画については、江戸時代後半の作と推定されますが、なぜ当寺に伝わっているのか（寄進されたのか）は不明です。

## 本堂・山門に関わった職人たち

◆正楽寺の歴史・文化財についてお話ししてきましたが、それだけではなく、私はこういう時に普段しっかり目を向けられない、寺を建てる時に関わった職人たち（の仕事）をきちんと紹介していきたいと思っています。こういう人たちは、近くの人、地元の人が多いんです。長男以外の方は職人になることが多いんです。例えば寺の普請があるとすると、大家は金を出す、そうでない人は、人力・米などを寄進する。そういうことで成り立っています。だから地元の人が建設に関わる人が多いんです。それに、昔の人の技術はすごいです。

### ①本堂の絵図（設計）を描いた 柴田新八郎貞英

◆柴田家は代々、本願寺に出入りする有名な大工で、新八郎貞英は名匠と言われ、東本願寺・井波別院瑞泉寺など大寺の造営にかかわっています。そんな人がなぜ正楽寺の絵図を描いたのかわかりません。暮戸に真宗大谷派の教会があり、そこで名のある大工である柴田さんに出会って依頼したのではないかと思います。檀家さんの熱意がすごかったのが伝わってきます。棟札（建築の記録などを高所に貼り付けた版札）に書かれていたから間違いありません。



南西から見た本堂



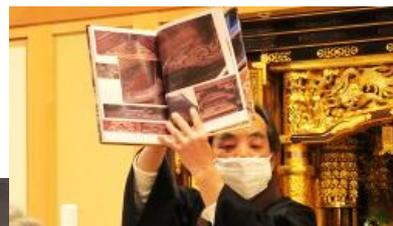
本堂入口の彫物

### ②本堂・山門の大工棟梁 山本金四郎貞次

◆1808年に造立された現・本堂と、1833年に造立された現・山門の棟梁を務めています。この辺では有名な大工です。近くでは、西尾・浄願寺本堂、岡崎・浄光寺本堂、岡崎・慈光寺鐘楼などの大工棟梁でした。山本家は江戸時代後期から末期に、三代にわたって活躍した堂宮大工です。彫り物の彫り方にちょっと特徴があります。

### ③山門の彫刻師 早瀬勝蔵

◆山門の彫刻をしたのは、早瀬勝蔵です。勝蔵の師は 早瀬長兵衛（代々襲名）で、その人の本が並ぶほど立派な彫刻師（一門）です。早瀬一門は、東本願寺や名古屋別院の建築彫刻を手掛けています。



山門の彫刻  
境内側から外に見ていく



熊谷家・西郷家の墓 現地説明をさせていただく



○熊谷家の居城 高力城は、正楽寺の北東500m（直線）くらいの所にある。石碑だけが建っている。大草城と高力城は割と近い。更に高力城の北1kmくらいの所には坂崎城（天野康景）がある。城と言っても館（城館）だから近くても不思議はないか。

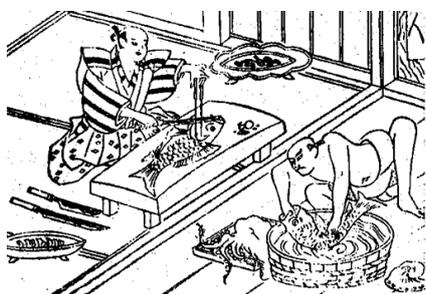
○高力は地名であり、熊谷の地名もある。

○静岡県に大草というところがある。牧之原の近く（島田市）で、幸田町大草と交流している。

○大草氏は料理人。大草流庖丁道は、大草三郎左衛門公次（きんつぐ）により創始された。将軍の元服など儀式での料理を担当した。庖刀式は刀だけで魚をさばく。廃絶していた庖刀式は2015年より神事として復活し、寺の本堂でも行ったりする。

○大草氏の初代当主は大草公経（きんつね）であり、大草郷の領主（大草城主）。大草公次は嫡流ではない。大草氏は大草城で6代くらいまでは続いたらしい。

調理場内包丁式図



国立国会図書館蔵 人倫訓蒙（元禄3年刊）

庖刀式

参考写真



庭も見せて頂いた。



きれいに整備された竹林。情緒がある。庭園と続いているが、これはよその土地。お断りして手入れしている。

庭の奥の木の上にイカル



ありがとうございました。

庫裡

2017年改築



本堂に“どうする家康” 今年はこの年だ！

九年 | 水華 九年 | 成 官 盤 九年 | 竹 供 九年 | 竹 供 九年 | 竹



「正楽寺」焼印のどら焼き

岡崎 福岡町のとらや末廣

お茶も、どら焼きもおいしかったです。お世話になりました。

作左の会

検索



一筆啓上・作左の会

(記:竹内 喜則)